

《目的》幕末以降、西洋文化の流入により人々の生活はあらゆる面で急速に変化したといわれている。では江戸時代に我が国独自の様式を生み出した化粧法は明治という時代にはどのように変化したのであろうか。また、どのような点は変化しなかったのであろうか。西洋からの影響はどのようなものであったのか。今回の発表では、明治時代に発刊された「都の華」を資料として明治時代の化粧のとらえられかたを明らかにすることを目的とする。

《方法》「都の華」（都新聞の付録。明治30年6月2日～明治36年11月20日発行の第1巻～第72巻（第22巻欠））に取り上げられている記事の中から化粧関連の記事について項目別に分類を行い、どのような項目に重点がおかれているのかについて考察を行った。

《結果》「都の華」の内容は、季節ごとの装い・流行・食べ物、昔（江戸時代）の記事、一般公募の川柳・都々逸、連載小説、などがその主なものである。表紙は流行の装いが有名画家によって描かれその詳細な解説が1ページめに取り上げられているという現代のファッション雑誌的な号と、抽象的な絵柄が描かれている号に大別される。その中で化粧法そのものを取り上げた記事は2編とたいへんに少ない。他に化粧関連記事としては髪形のみに関する記事が15編と多い。髪飾りに関する記事なども含めるとさらに多数となる。髪形が明治の女性の装いの中では強い興味関心をひく部分のひとつであったことがうかがえよう。「都の華」には化粧自体に関する記事が少なかったため直接その方法については解明に至らなかった。詳しい化粧法については、明治時代に発刊された他の書物などによってその実態をさらに究明してゆきたいと考えている。